

人に従うか神に従うか

使徒たちによる福音の宣教には聖霊によるめざましい力ある業が伴い、エルサレム全体に一大センセーションを巻き起こした。その結果、おびたしい人の群れが、罪を悔い改め、イエスへの信仰を告白して弟子の群れに加えられた。その数は男だけでも五千人にのぼった。

しかし、ガリヤ出身の無学な、ただの人たち(4:13 口語訳)によって導かれたこの一大霊的覚醒運動はユダヤ当局者たちをいらだたせた。熱狂的な群衆の暴動化による社会の混乱と十字架につけられたナザレ人イエスの復活を主張する弟子たちの教えが蔓延するのを恐れた彼らは、指導者であるペトロとヨハネとを逮捕し投獄した。

わずか5、6週間前にメシアを自称するナザレ人イエスを処刑することによって、ガリヤ人の熱狂的民衆運動を抑えることができたと考えたのに、事態はそうではなく、弟子たちによって思わぬ方向に展開していることにサンヘドリン(ユダヤ最高法院)は当惑し、また怒った。彼らはペトロとヨハネを議会に引き出し、今後、イエスの名によって語ることも説くことも相成らぬと言い渡し、権威を持って彼らを威圧しようとした。

それに対してペトロとヨハネは答えた、神に従わないであなたがたに従うことが、神の前に正しいかどうか、考えてください。わたしたちには、見たことや聞いたことを話さないではいられないのです(4:19、20)。なんとという力強い、権威を恐れない大胆な信仰の応答であろうか。

主イエスは十字架にかかれる前、弟子たちに、彼らが直面するであろう予想される困難について語りこたえられた、「人々はあなたがたに手を下して迫害し、会堂や牢に引き渡し、わたしの名のために王や総督の前に引っ張って行く。それはあなたがたにとって証しをする機会となる。だから、前もって弁明の準備をするまいと心に決めなさい。どんな反対者でも、対抗も反論もできないような言葉と知恵を、わたしがあなたがたに授けるからである」(ルカ21:12? 15)。

そして復活後もこたえられた、「あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりではなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる」(使徒言行録1:8)。サンヘドリンの前での弟子たちの大胆な証言は、彼らの中に働くキリストの御霊(聖霊)のダイナミックな働き以外のなにものでもなかった。

弟子たちは、最高法院の宣教禁止命令に直面したとき、ひるむことなく、逆に、主よ、今こそ彼らの脅しに目を留め、あなたの僕たちが、思い切って大胆に御言葉を語るができるようにしてください。どうか、御手を伸ばし聖なる僕イエスの名によって、病気がいやされ、しるしと不思議な業が行なわれるようにしてください」と祈り、困難に立ち向かって行った。

この初代教会の勇気ある姿から、私たちも、今日、信仰に生きる力を学びたいと思う。どんなことがあっても、どんな困難に直面しても、人に従うより先に神に従うことを選び取り、またそれを喜びとするキリスト者になりたいと思う。

生はわたしの助け手。わたしは恐れない。人はわたしに何ができるだろう。(ヘブライ 13 5、6 / 詩編 118 5、6)。